

総合計画審議会 答申（案）の概要【総合・地域分科会】

分科会における審議内容のうち、主な意見とその対応についてまとめています。

政策	No.	テーマ	意見	対応
序論・ 基本構想	1	佐賀らしさについて 【P24 将来像】	計画では佐賀の歴史や風土、地理的特徴、誠実さ・真面目さなどの人柄、特産物などなど、佐賀市らしさの記載が少ない。 将来像にある「佐賀らしさ」とは具体的に何なのかがわかりづらいところや人によって認識の異なるところがあるため、明記すべきではないか。	「佐賀らしさ」の定義は、審議会の中でも大きな議論になったところ。結論として、「佐賀らしさ」の明確な定義を避ける方が良いと考えます。 一人ひとりが考える「佐賀らしさ」があり、それを明確に定義することは「らしくないもの」を排除するようにも読み取れます。また、その多様な「佐賀らしさ」を大切にしよう、というのが今回の将来像に込めた思いです。そのため、素案のようにリード文に例示として記載するにとどめたいと考えています。 なお、「佐賀らしさ」についていただいた意見は、リード文の例示の中で追記しています。 【追加したもの】 ・水やみどり、特徴的な自然 ⇒「有明海」「嘉瀬川や筑後川」「クリーク」「脊振・天山山系の山々での暮らし」 ・誠実さ、まじめさ、絆を大切に ⇒「人々が信頼しあう」
	2	市民参画の視点 【P25 将来像に向けた目標】	将来像の中に市民参画の視点が不足しているのではないかと。市民も行政サービスをただ受けるだけでなく市民も主体となって参画し、みんなでまちづくりをしていくことを目指すべきではないか。	将来像に向けた目標のうち、「まち」の目標において、市民参画の視点を加えるよう修正します。
	3	歴史・文化の継承 【P25 将来像に向けた目標】	先人が築いてきた過去や歴史をどのように活かしていくかという視点が計画に必要と考える。「まち」の目標について、「これまでにあった資産や歴史を守ることは前提として～」の「資産や歴史」のフレーズだけでは、心もとないのではないかと。	意見を踏まえて、「文化」というワードを追加します。「これまでにあった資産や歴史、文化を守ることは前提として～」としています。
	4	価値観の共有 【P26 AI等の最新技術とデータを活用したまちづくり】	「価値観を変える」というような言葉があるが、価値観はむしろ共有・理解が必要であり、変えるべきは視点と思考と行動と考えている。	「価値観を変える」という言葉を全体的に見直し、「社会が人に合わせる」や「重視する視点に変化」などに変更しています。

総合計画審議会 答申（案）の概要【総合・地域分科会】

政策	No.	テーマ	意見	対応
03 文化・スポーツ	5	スポーツに関する企業との連携 【P40 する・みる・ささえるスポーツの推進】	スポーツ振興について、資金面などで活動の維持や施設の更新が難しい場合があり、スポーツビジネスなどの企業や学校等との連携をより進めることがよいのではないか。	「他の行政分野や県、企業等とも連携し、」と、県や企業等との連携の視点を追記します。
	6	文化の継承と創造 【P39-40 文化の魅力を高め未来へ】	「2040年に目指す市民等の姿」の2つ目の歴史・文化における主なポイントについて、「市民が文化を身近に感じ、文化芸術活動へ参加すること」や「文化の保存や継承活動が活発で、市民が誇れる歴史を生かしたまちであること」に変更してはどうか。 また、「2 文化の魅力を高め未来へ」では、「②文化が持つ多様な価値や魅力について、最新技術を取り入れながら分かりやすく発信し、伝統文化の保存・継承に努めます。」「③市民が様々な文化に親しむ鑑賞や体験・発表の機会を提供します」と修正してはどうか。	該当箇所を、「佐賀の歴史や文化が大切に継承されていること」と「市民が文化を身近に感じるとともに、新たな文化が創造されていること」へ変更します。 意見を取り入れ、「①本市には、歴史や風土のなかで育まれてきた佐賀ならではの歴史遺産や伝統文化などが数多くあり、大切に継承されるよう取組を推進します。」「② 市民が暮らしの中で多彩な文化芸術活動に触れ、自ら取り組む機会を創出します」などと大きく変更しています。
07 コミュニティ	7	参加しやすさの向上 【P47 前文】	「自治会」や「協議会」といった、硬い名前だと楽しくなさそうだったり、自己犠牲を伴うようにみえたり、参加義務を感じたりすると思う。参加者が減ることもあるため、印象を変えるために、「みんなが楽しく」等、参加したくなるような文言にしてはどうか。	「みんなが楽しく」と同じ意味合いとして、「まちづくりに関わる活動に、誰もが気軽に楽しみながら参加できるよう、」という表現に修正します。
	8	支えあいの観点 【P47-48自分らしく幸せに暮らす社会の実現】	「同時に他人を思っていること」は「思い合っていること」というニュアンスの方が良いのではないか。 また、一人ひとりが「自分らしく幸せに暮らす」ことを求めると、それぞれがぶつかり合ってしまう。「幸せに暮らしかう」と、人と一緒にいることを強調する文章としてはどうか。	表現を見直し、施策名称を「自分らしく幸せに暮らし、支え合う社会の実現」として、取組も「自分を大切にすると同時に互いを思い合っていること」に文言を変更します。

総合計画審議会 答申（案）の概要【総合・地域分科会】

政策	No.	テーマ	意見	対応																																																										
10 行政経営	9	市民との協働 【P53 前文】	行政と市民がともに見られるようなキャッチコピーや合言葉があると活動しやすいと思う。計画が行政からの一方通行にみえるため、市民がサービスを受ける側だという印象が強い。行政経営は行政だけが行うものではないので、市民の役割がもう少し反映されていても良いのではないかと考える。	「2040年に目指す市民等の姿」では、佐賀市に関わりたい市民を増やす目標を掲げているため、「市民とともに、」という文言を追加しています。																																																										
	10	職員の主体性 【P54 信頼される持続可能な行政運営】	子育てや高齢者のお世話のことなど、どうしても女性にしかわからない観点があるため、行政が主体となって女性が活躍できる場所を明確に示す必要があると考える。	市では、性別に関係なくすべての職員が、適材・適時・適所で業務に従事できる体制の構築を目指しています。そのため、「すべての職員が主体性を持って活躍することで、」という文言を追加します。																																																										
SDGs	11	政策とSDGsの関連 【P56】	「1 貧困をなくそう」について、コミュニティの取組のうち、自立した生活を支援するという項目が該当するのではないか。自立した生活の支援が貧困をなくすことに繋がると考える。	<p>関連表について、修正します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">基本政策</th> <th colspan="3">対応するSDGs</th> </tr> <tr> <th>1 貧困をなくそう</th> <th>5 ジェンダー平等を実現しよう</th> <th>11 住み続けられるまちづくりを</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>01</td> <td>子育て・教育</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>02</td> <td>健康・福祉</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>03</td> <td>文化・スポーツ</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>04</td> <td>経済・観光</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>05</td> <td>農林水産</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>06</td> <td>生活・環境</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>07</td> <td>コミュニティ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>08</td> <td>防災・安全</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>09</td> <td>都市・交通</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>行政経営</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	基本政策		対応するSDGs			1 貧困をなくそう	5 ジェンダー平等を実現しよう	11 住み続けられるまちづくりを	01	子育て・教育	○	○	○	02	健康・福祉	○	○	○	03	文化・スポーツ			○	04	経済・観光			○	05	農林水産			○	06	生活・環境			○	07	コミュニティ	○	○	○	08	防災・安全			○	09	都市・交通			○	10	行政経営		○	○
			基本政策				対応するSDGs																																																							
					1 貧困をなくそう	5 ジェンダー平等を実現しよう	11 住み続けられるまちづくりを																																																							
01	子育て・教育	○	○	○																																																										
02	健康・福祉	○	○	○																																																										
03	文化・スポーツ			○																																																										
04	経済・観光			○																																																										
05	農林水産			○																																																										
06	生活・環境			○																																																										
07	コミュニティ	○	○	○																																																										
08	防災・安全			○																																																										
09	都市・交通			○																																																										
10	行政経営		○	○																																																										
「11.住み続けられるまちづくりを」について、市のすべての政策に関連する項目であると考えます。																																																														
行政経営の「5 ジェンダー平等を実現しよう」に○がないことが寂しいと感じる。女性が活躍しやすい環境は、公務員こそ実現させやすいのではないかと考える。まずは行政から積極的に進めてほしいと思う。																																																														

総合計画審議会 答申（案）の概要【こども・教育・福祉分科会】

分科会における審議内容のうち、主な意見とその対応についてまとめています。

政策	No.	テーマ	意見	対応
基本計画	1	大学との連携 【P34 横断的視点】	大学との連携について、生涯教育の項目に記載があるが、佐賀県の大学が5つあるうちの4つが佐賀市に集中している現状を考えると、もっと大学との連携についての記載があっても良いと思う。 大学があることを市民が認識し、市民ももっと大学を活用しようと共有してほしいと考える。	「横断的視点」の「柔軟性」に大学等が集積していることを生かして、様々な主体と連携して柔軟にまちづくりを進めていくことを記載するようにします。
	2	グローバル化の視点 【P34 横断的視点】	外国人留学生、外国人労働者、その家族の問題など、佐賀県の中でも佐賀市はグローバル地域の課題先進地となると考えている。 外国については大きなテーマとして捉え、国際に関する施策を強く打ち出すべきと考える。	「国際」の観点は今後重要となり、分野を超えて対応の必要があるため、「横断的視点」の5つ目として、「国際性」を設け、グローバルな視点で世界に開かれた佐賀を目指す旨を記載します。
01 子育て・教育	3	学ぶ環境 【P35 多様な未来につなげる教育の推進】	「こどもたちがいつまでも楽しく学べる環境がある」について、2040年の目指す姿としては、掘り下げた記載だとより良いと思う。	教育環境整備の視点で記載をしており、その視点により明確になるよう、「いつまでも」を削除し、「こどもたちが楽しく学べる環境があること」としています。
	4	学校教育 【P36 多様な未来につなげる教育の推進】	「誰一人取り残すことのない教育」とは、どのような教育なのかイメージしづらい。また、目指す姿と取組方針で同じような言葉の繰り返しとなっている。	記載が重複していたため、取組方針の記載を「多様な教育ニーズに対応し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図り、全てのこどもたちの可能性を最大限に伸ばす教育を推進します」に変更します。
	5	多様な主体・手段 【P36 地域全体で支えるこどもの健全育成】	取組方針の「①家庭・地域・企業・学校が～」とあるが、NPOや社会福祉法人も含まれるため、より多様な団体・手段があることを明示してほしい。	「①家庭・地域・企業”等”・学校”等”が～」と、等を含めて限定せず、また、いろいろな団体を包括する「市民活動団体等と協働し、」という文言を追加します。

総合計画審議会 答申（案）の概要【こども・教育・福祉分科会】

政策	No.	テーマ	意見	対応
02 健康・福祉	6	孤独・孤立の増加 【P38 地域共生社会をめざす福祉の充実】	若年層の自殺率は先進国の中でも高い。社会的な孤立が横断的な課題であり、みんなで繋がりあうという考え方が大事である。	「孤独・孤立などの課題を抱える人」と、孤独を課題の具体的な例として追加しています。
	7	全ての人を対象とする取組 【P38 地域共生社会をめざす福祉の充実】	高齢者・認知症・障がい者など特定の人を対象にしている印象を受ける。地域住民すべての人が対象ではないか。	生活困窮者、障がい者、高齢者などの文言を削除し、「就労が困難な状況にある方が」と就労をキーワードに誰にでも当てはまるように変更しました。
	8	担い手不足への対応 【P38 地域共生社会をめざす福祉の充実】	共同で人材を確保し担い手不足を解消する戦略と施策展開や各団体の連携などが必要である。	人材の確保、担い手不足について、取組方針を新たに追加し、「担い手のすそ野を広げるために、～誰もが様々な形で地域づくりに参加できる仕組みを作ります。」という項目を追加しました。
	9	相談支援の充実 【P38 地域共生社会をめざす福祉の充実】	各世代の人が、困ったときにどこに相談したらいいのか分からないため、NPO法人等との提携やチャット相談や体制の充実などを図ることが大事である。	福祉分野の取組方針において、「アウトリーチなど「多様な手段による相談の受け止め」や、伴走型支援を推進します。」と、具体的な取り組みに追加しました。
	10	権利保護 【P38 地域共生社会をめざす福祉の充実】	福祉は何かを考えると、「権利を守る」ことが大きな意味を持つと考えるため、福祉分野においても人権という言葉を入れてほしい。	権利保護は横断的視点の多様性で記載していましたが、福祉分野でも、「多様な福祉ニーズへの適切な対応や、生活や財産などの権利を擁護する取組を進めるため、」と記載しています。

総合計画審議会 答申（案）の概要【経済・産業分科会】

分科会における審議内容のうち、主な意見とその対応についてまとめています。

政策	No.	テーマ	意見	対応
基本計画	1	国際性 【P34 横断的視点】	経済・観光、農林水産において、住民・関わる人などとまとめられているが、外国人やLGBTの方などもおり、それが見えにくい。また、グローバルという視点も足りていないのではないかと。	こども・教育・福祉分科会においてもグローバル化に関する指摘がっており、横断的な視点に「国際性」を追加します。
04 経済・観光	2	民間との連携 【P42 働きがいのある企業を増やす】	「産学官の連携」に、「民」を追加してはどうか。民間との連携について、より打ち出してよいと考える。	「産学官」という表現を「産学官民」と表記することで、民間との連携を強調するように修正します。
	3	創業の促進 【P42 働きがいのある企業を増やす】	企業誘致に関し、外から呼んでくる例もあるが、これからは企業を育てていくことが重要である。若者・女性・高齢者の創業など、地元から生み出し育てていくという観点も入れるべきではないかと。	創業支援、企業家育成は重要と考えています。「創業」という言葉を追加する方向で修正します。
	4	創業の促進 【P42 働きがいのある企業を増やす】	働きがいのある企業を増やすためには、受け入れる側の企業への施策が重要なのではないかと。 P38「1 地域共生社会を目指す福祉の充実」の⑤～⑧では生活困窮者や障がい者、高齢者の就労について書かれているが、その就労の受け入れ態勢を整える施策が4 経済・観光に含まれるべきだと考える。	指摘を踏まえ、新たに項目として「⑤誰もが安心して意欲的に働くことができるよう、労働環境の向上と勤労者福祉の充実を促進します。」を追加します。
	5	市民も主体の観光 【P41 価値のある観光体験の提供】	目指す市民等の姿の主語が、2 点目の観光だけ「市を訪れる人」となっているが、その主体は市民であるべきかと思うので、「市民が」観光客に対して、という形にできないかと。 まずは佐賀市民が自分たちの観光資源に気づき、おもてなしをすることによって、観光客に佐賀市を気に入ってファンになってもらいたい。この趣旨を踏まえて文言を検討してほしい。	「市民は日常にある地域の魅力を内外に伝え」という内容に修正し、目指す姿に「市民」の観点を加えます。

総合計画審議会 答申（案）の概要【経済・産業分科会】

政策	No.	テーマ	意見	対応
04 経済・観光	6	地域性 【P42 価値のある観光体験の提供】	佐賀らしい観光という表現があるが、佐賀市は北から南まで広く、市町村合併した地域を含めてそれぞれで地域らしさが異なると感じた。唐津や武雄には市らしさのイメージがあるが、佐賀市ではあまりイメージがつかず、地域ごとに観光・集客要素がある。佐賀市らしさや佐賀市の観光とまとめるのではなく、地域ごとの特徴や方針を打ち出した方が、外部の人にはわかりやすいのではないか。	②の取組の中に、地域性の観点を追加し、「地域の特性を生かした」に修正します。
	7	投資による循環 【P42 ここにしかないモノ・コトが集まる「まちなか」への進化】	佐賀の魅力を高めるためには、佐賀市民だけではなく、市外の人投資をしたいと思えるようにしなければならない。例えば病院はインフラであり、人を集めるために病院を建てるのではない。まずは、人をどう集めるかが重要である。	人々が集まる環境をつくることは重要です。そのうえで、市内だけでなく、市外や県外からも、まちなかへの投資を呼び込みエリアの価値を上げ、そのことで新たな投資を呼び込むという好循環を作っていきたいと考えており、「新たな投資を呼び込む好循環を生み出す」という趣旨を追加します。
	8	バリアフリー 【P42 ここにしかないモノ・コトが集まる「まちなか」への進化】	ここにしかないモノ・コトが集まる「まちなか」への進化に、バリアフリーについての観点を反映させてほしい。健常者でない方が気軽に集まるには不自由することがあるので、多くの人が集まるまちなかを目指すのであれば、バリアフリーの観点も必要であると感じた。	「誰にとっても居心地の良い、訪れたい空間」に修正することで、バリアフリーの観点についても盛り込むこととします。
	9	次世代 【P42 ここにしかないモノ・コトが集まる「まちなか」への進化】	ここにしかないモノ・コトが集まる「まちなか」への進化について、取組方針の中で「様々な世代」と表現されているが、「次世代」の観点がもう少し反映されても良いのではないか。	「こどもの頃から誇りと愛着を持ち」に修正することで、次世代の観点も踏まえた「まちなか」と表現することとします。

総合計画審議会 答申（案）の概要【経済・産業分科会】

政策	No.	テーマ	意見	対応
05 農林水産	10	項目の整理 【P44 感動を与え、稼ぐ農業の実現】	方針の数が多いので、最重要なもののみ明示するか、優先度を定める方が良く考える。また、①と④「労働力確保」、②と③と⑦の「生産効率化」に関する方針は重複していると思うので、統合した方が良いのではないかと。一番重要なのは労働力確保だと思う。	取組方針について、全体的に再整理を行い、重複がないように修正します。
	11	小さい頃の体験 【P44 感動を与え、稼ぐ農業の実現】	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の稲作体験に関わって、子供たちと楽しい体験をさせてもらったため、今後も続けてほしい。 ・生産側に立つ体験だけではなく、消費者側までつながる体験を、学校教育や地域教育などで行ってはどうか。 ・興味を持つことには小さいころに触れた経験が大きいため、良い取組と思う。 	小さい頃から農業に触れる機会があることは、農業に魅力を感じるためにも非常に大切なことと捉えていることから、意見を踏まえ、新たに項目を織り込むように修正します。

総合計画審議会 答申（案）の概要【くらし・環境分科会】

分科会における審議内容のうち、主な意見とその対応についてまとめています。

政策	No.	テーマ	意見	対応
序論・ 基本構想	1	災害の捉え方 【P6 横断的な視点】	02「激甚化する災害への備え」に“地震”、“大規模火災”を追加してほしい。今回の能登半島地震を見れば、佐賀市でも直下大地震の恐れはあり、市も市民も佐賀に地震はないと思いたまえないためにも必要であると考えます。	意見を踏まえて、「近年、日本の多くの場所で、水害、地震等の自然災害が発生しています。」に修正します。
			「災害が発生した際には被害ができる限り小さく済むように、自助・共助・公助が連携して日頃からの十分な備えを行う」という社会の潮流認識に賛同する。なお、指摘のあった減災ともに、激甚化している災害を踏まえると、復旧復興の備えも重要な視点ではないかと考える。	「復旧」の意味を含む「防災」という文言を用いて修正します。
	2	地域性 【P24 将来像】	全体的に平野部に寄っている計画内容に見える。里山の維持管理については、人口減少に伴って難しくなってくると思う。今後のそれぞれの地域がどうなるのか、しっかりと加味すべき問題と考えている。	平野部に寄った計画内容となっているという意見ですが、佐賀市は南北に広く、海もあれば山もあり、地域によって個性があります。このことについては、基本構想の将来像のうち、「有明海」「水の豊かさ」「脊振・天山山系の山々の恵みを感じられる暮らし」などを新たな「佐賀らしさ」に含め、それを大切にしながら磨き上げるということをしっかり謳い込みます。
	3	文化の継承 【P25 将来像に向けた目標】	先人が築いてきた過去や歴史をどのように活かしていくかという視点が計画に必要と考える。p.25の一つ目の目標について。「これまでにあった資産や歴史を守ることは前提として～」の「資産や歴史」のフレーズだけでは、心もとないと思う。この文章に「文化」を追加し、「資産、歴史、文化」とすればより良いのではないかと。後述の「まちが持つ自然や個性、人々のつながり」を包含して、文化と言えると思う。	意見を踏まえて、「文化」というワードを追加します。「これまでにあった資産や歴史、文化を守ることは前提として～」としています。
4	生物多様性 【P34 横断的な視点】	生物多様性の保全是国連が定めた課題であり、2040年を見据えた計画の中でしっかりと押さえるべき観点であると考えます。	生物多様性については、施策を進めるうえで重要な観点だと考えます。施策の「横断的な視点」のうち、「③持続性」の中で、その観点を追記します。	

総合計画審議会 答申（案）の概要【くらし・環境分科会】

政策	No.	テーマ	意見	対応
06 生活・環境	5	サーキュラーエコノミー 【P45「捨てるくらし」から「活かすくらし」への転換】	3Rの取組は従来進めてきたかと思うが、近年はサーキュラーエコノミーへの移行が環境省でも示されているため、この考え方を計画内に盛り込んでもいいのではないかと思う。	市民が理解できるよう「サーキュラーエコノミー」という言葉については言い換え、「プラスチックの資源循環をはじめとして持続的に資源を利用する循環経済へ移行すること」に修正します。
	6	自然環境の保全 【P45 豊かな自然と心地よい暮らしの調和】	2040年に目指す市民等の姿の「自然や動物と共存するまち」のフレーズについては、植物の観点も抜けているので、「自然や生物と共存するまち」に変更するのが望ましい。 主なポイントについて、外来生物についての記載は、右側の取組に同様の内容が書かれているので、記載不要ではないか。今の佐賀の自然を知り・親しみ、これからも保全していくという記述をもう少し加えてもいいのではないか。	「3.市民は、豊かな自然や身近な生活環境を守るため、自らできることに取り組み、自然や生物と共存するまちで快適に暮らしている。」に修正します。 「佐賀市の多様な自然や生態系について学び、自然環境の保全や再生に取り組んでいること」 「市民と協働して良好な生活環境の維持に取り組むこと」 に修正します。
08 防災・安全	7	平時の備え 【P49 防災・安全】	「3 地域ぐるみによる生活者の安全確保」のうち、常時の安全確保の観点も、「1 総合的な防災・危機管理対策の充実」の災害時の安全確保にも繋がる・・・というような言葉があってもいいのではないか。	防災・安全のリード文の中に、平時の備えが非常時の安全確保につながるという趣旨を追加します。
09 都市・交通	8	交通と環境の関係性 【P51-52 人と環境に配慮した道路ネットワーク整備】	「①道路ネットワークが充実することで、移動時間の短縮や渋滞の緩和を図り、地域経済の生産性向上やCO2排出量の削減に寄与します。」の記載について、「寄与」ではなく、CO2排出量ゼロを目指すなどの表現が適切ではないか。また、P45の市民等の目指す姿の中の「市民生活や事業活動に必要なエネルギーは、再生可能エネルギーで賄われている。」との整合性も取れていないのではないか。	道路の果たす役割は、間接的に「CO2排出量の削減に寄与する」ことであるため、CO2排出量ゼロなどの表現の修正は行いませんが、意見を踏まえて施策の内容を以下のとおり修正します。 「①安全で快適な歩行空間や自転車走行空間の整備を図ります。 ②移動時間の短縮や渋滞の緩和を図り、地域経済の生産性向上やCO2排出量の削減に寄与する道路ネットワークを充実させます。」